

Namaste! 短くも強烈な冬が過ぎ、暖かい…というより、蒸し暑い春をむかえているデリーです。風が冷たく、乾燥した冬の間、ほとんど雨が降ることはなかったのですが、3月に入って、モンスーン並みに激しく降った日がありました。あれよあれよという間に雨脚が強まり、暴風もあいまって天気は大荒れ。10分もしないうちに、写真のような惨状が！ベランダを確認すると、そこはプール状態。サンダルがプカプカ浮かんでいました。お風呂用のワイパーで水をかきだしながら、「ベランダの掃除だけはさぼらないようにしましょう！」と、固く心に誓った次第です。翌日、冬の間風でベランダに運ばれてきた枯葉や土を、排水溝からせっせと取り除いたのはいうまでもありません。



そのような極端な天候をものともせず、活動先の学校では、今日も1年生から11年生の選択者が、元気に日本語を学んでいます。（12年生はめでたく卒業しました。）日本と同様、インドも年度末をむかえている今、今年度生徒が取り組んだ、日本に関する活動のうち、とくに印象的だったものを2つご紹介したいと思います。

1. 日本の中学生との文通

7年生が、日本の中学校の生徒に向けて、日本語で手紙を書きました。教科書にある「手紙」の単元にちなんで行った活動でしたが、生徒たちは興奮し、いつもはちょっと課題が遅れがちな生徒も、はりきって提出日に書いてきてくれました。スキャンしたデータを各中学校へ送るや否や、毎日のように、「返事が来ましたか？」と聞きに来る生徒たち。実際に、日本の中学生が、易しい日本語やときには英語も使って、心をこめて書いてくれた返事を渡した日には、皆シーンとして、食い入るように手紙を読んでいた。常々「話すのをやめて！」と注意されてばかりいるのに…。

それもそのはず、1年生から選択科目として日本語を学んできてはいますが、日本人と触れ合うのは協力隊員である私が初めてだったという生徒も多いのです。同世代の日本人から発信された日本についての情報は、さぞ刺激的だったことでしょう。日本語学習のモチベーションも、おおいに高まったようです。

お忙しい時間を割いて、このような貴重な経験を生徒にプレゼントしてくださった、奈良県生駒中学校、愛媛県日吉中学校、栃木県北犬飼中学校の生徒さんと先生方に、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2. 日本のダンスに挑戦

「次回の低学年の集会で、5年生に『安来節』の男踊りを踊ってもらいます。」

「ええっ!？」

同僚の先生の、無謀としか思えない提案に、啞然とするしかありませんでした。踊りに欠かせない小物である、ザルやビクもないし、第一振り付けはどうするのでしょうか。日印交流を目的として、安来節のワークショップを行っておられる日本人の方を、本校にお迎えした直後のことです。表情たっぷりのアクションや、独特の節回しは、生徒の心をがっちりつかみ、講師の方の指導の下、貴重な日本製の小物を身につけて楽しく踊りました。ですが、定期的に学芸発表の場として催される集会で、1~5年皆が見つめるなか、パフォーマンスをするレベルではないはずで

「大丈夫。ビデオを渡して、自分で練習してもらいます。」と先生。本当に大丈夫なのでしょうか？



【練習】

私の心配は、まったくの杞憂でした。5年生の精選メンバーは、短期間のうち、表情も含め、完璧に振り付けをものにしてきたのです。さらには手作りの古銭(アルミホイル製)も持参して!家の人に借りたスカーフでほっかむりし、美術の先生が厚紙で作ったザルとビクを持って、古銭を鼻に装着したら、「ドジョウすくいに行く

男」の出来上がりです。『ドジョウがいた!』『ヌルヌルするから逃げられてしま
う』『泥が目に入った』などなど、表現力あふれる動きが、喝采をあげたステー
ジでした。「工夫と努力でなんとかする」というインドの生徒や先生方の姿勢に脱帽
した出来事です。



【本番】

「座って先生の話をお聴き」という時間もちろんありますが、活動先の学校は、
どの教科でも、「生徒が実際にやってみる」ことに重点がおかれているようです。
日本の教育現場でも、「生徒中心」の活動が模索されていますが、インドの先生も、
同じ点を重視しているということに、励まされるような思いがしています。

4月から新学期が始まります。新学年の生徒たちが、ますます日本に興味をもっ
てくれるような授業を、なんとか工夫したいと思います。

今回も読んでいただき、ありがとうございます。